

股関節が痛い患者さんへ

36-1 整形外科 教授 兼氏 歩

1. 全国でも有数の治療実績を持つ「股関節」の手術

金沢医科大学整形外科では、股関節疾患を多く扱っています。兼氏 歩教授は股関節外科を専門としており、北陸はもとより新潟や岐阜、滋賀県など近隣県から多くの患者さんが股関節の手術のために来診されます。過去の股関節手術件数は 1500 例を越えその業績は数々の学術集会で発表されています。また、日本股関節学会評議員、日本人工関節学会評議員として日本の股関節分野を牽引しており、数多くの全国規模のセミナーで講師を務め、良好な成績を達成するための手術のポイントなどを若手医師に教育しています。また、市堰 徹准教授、福井清数講師も同様に股関節手術に習熟しており、当科の手術件数は年間約 250 件にのぼります。人工股関節置換術は北陸、甲信越のみならず名古屋を含めた中部圏において最も多くの患者さんを手術しています（週刊朝日 MOOK など）。手術は人工股関節置換術および再置換術、自分の骨で治す寛骨臼骨切り術を主に行っています。特に 50 歳までの関節軟骨が残っている形成不全股に対する寛骨臼骨切りでは全国に先駆けて小さな皮膚切開による低侵襲骨切りを行っています。また股関節鏡を用いた手術も行っています。

手術の約 80%は人工股関節置換術です。当科では人工股関節手術に際し、その方に最適と考える人工股関節を選択させていただいております。人工股関節置換術翌日から歩行練習や移動を開始しており、早期退院が可能になりました。これらは最新の人工股関節手術としてテレビ金沢のカラダ大辞典（2012 年 2 月 21 日放送）や月刊誌アクタス（2014 年 6 月号）などでも紹介されています。

2. 股関節の外来

股関節の外来は、兼氏教授が月・金、市堰准教授が水・金、福井講師が月・水のいずれも午前中に担当しています。初診の方は検査があるため早い時間に受診ください。

3. 股関節の研究

厚生労働省の難病特定疾患である大腿骨頭壊死症の研究班に長年所属しており、大腿骨頭壊死症の発生および予防法の研究を行っています。また、人工股関節の開発および耐久性向上のための研究も行っています。